巻頭図版

合わせ口甕棺

甕棺出土状況

序

米原市内には約50ヵ所の縄文遺跡があり、滋賀県下有数の縄文遺跡密集地として知られています。このことは、琵琶湖と内湖、雄大な伊吹・霊仙の森に囲まれたこの地が、いちはやく開け、縄文人にとって非常に住みやすかったことを物語っています。

縄文遺跡として滋賀県で初めて発掘調査が行われたのは、本書で報告する杉沢遺跡です。今回の調査では、かつてこの遺跡を考古学界に知らしめた「合わせ口甕棺」が完全な形で出土しました。

最後になりましたが、調査にあたって土地所有者をはじめ地元の皆さんにお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

米原市教育委員会
教育長　瀬戸川　恒雄

例　　言

1．本書は、滋賀県米原市杉沢に所在する杉沢遺跡の発掘調査報告書である。
2．文化庁・滋賀県の補助を受けて平成15年度に発掘調査を伊吹町教育委員会が実施し、平成16～17年度に整理作業を行った。
3．調査体制は以下のとおりである。

平成15年度　調査主体　伊吹町教育委員会（教育長　松嶌滕龍）
　　調査担当　生涯学習課係長　高橋順之
平成16年度（平成17年2月13日まで）
　　同　　上
平成16年度（平成17年2月14日から）
　　調査主体　　米原市教育委員会（教育長　瀬戸川恒雄）
　　調査担当　　文化スポーツ振興課主査　高橋順之
調査作業員　的場育代・平山勝子・後藤美智子・世一みゆき

4．遺物の実測、復元、図面の整理、作成については、上記作業員のうち的場・平山・世一の協力を得た。ただし、10号甕棺の復元には（株）スタジオ三十三の協力を得た。あわせて出土状況復元模型を作成し、米原市伊吹山文化資料館で展示している。
5．本書をまとめるにあたって、土地所有者である藤田和彦氏とご家族の皆さんにお世話になった。また、下記の方々から指導、助言を得た。記して厚く感謝の意を表する次第である（順不同・敬称略）。

植田文雄・桂田峰男・田井中洋介・中村健二・宮崎幹也・撫養健至・渡辺　誠

6．本書は、高橋順之が執筆・編集した。
9．調査記録および出土品は、米原市教育委員会で保管している。

1　遺跡の位置（第１図）

米原市は滋賀県の北東部にあり、その中で伊吹地区（平成17年２月14日の坂田郡四町合併まで伊吹町）は、北東端の岐阜県との境にあり、県境をなす伊吹山地の麓に広がる山村部である。杉沢遺跡のある米原市杉沢は、伊吹山南麓の弥高川と政所川によって作られた扇状地扇端に位置している。

第１図　調査地位置図

2　杉沢遺跡研究史

大正13年、郷土史家・中川泉三が杉沢出土の御物石器と磨製石斧を『考古學雜誌』（14-13）に紹介したのが、杉沢遺跡研究の始まりである。昭和３年に島田貞彦が「有史以前の近江」（『滋賀縣史蹟調査報告』第１冊）で石器類を報告し、昭和11年には粕倉亮吉が『滋賀縣史蹟名勝天然記念物概要』で取上げている。

昭和13年、考古学者小林行雄らにより、「これらの石器を伴出する土器の性質を確かめる」ことを目的に、２日間の発掘調査が行われた。これは北近江で初めての発掘調査で、調査の結果、２組の縄文時代晩期後半の合わせ口甕棺を検出し、『通論考古学』や『日本考古学辞典』など考古学の基礎的な文献に、縄文時代の葬法の一つとして紹介された。昭和29年には京都学芸大（現京都教育大）によって１組の合わせ口甕棺が発掘された。以後、昭和63年に一部面的な発掘調査が行われ晩期前半の一括資料が出土し、また、平成７年にも甕棺１組が不時発見されているが、面的な考古学調査はほとんど行われていない。

日本考古学の黎明期から研究者に注目されてきた杉沢では、地元の樋口元氏を中心に遺跡への関心が高く、家の建て替えや井戸や池の掘削、田畑での耕作時に多くの土器や石器が採集され、詳細な記録とともに大切に地元で保管されている。なかでも、石器類は多種多量で、石鏃、石錘、石皿、敲き石、磨石、砥石、石斧、多頭石斧、玉、大小の石棒・石剣・石刀、御物石器、鰹節型石器などがあげられる。局部的な発掘しか行なわれていない杉沢遺跡で、集落内の広い範囲からこれだけの石器類が採集されていることは、地下に眠るであろう遺跡の規模の大きさと質の良さをうかがうことができる。

3　甕棺墓について（第２・３図）

縄文時代の墓のうち、土器を埋葬施設として用いるものを土器棺墓と呼ぶ。近畿地方の縄文時代晩期にみられる土器棺使用法は、中村分類では８類に分けられており（第３図）、このうちD～Fのタイプを「合わせ蓋棺」と呼び、同じ形の甕型土器を合わせたGのタイプを「合わせ口甕棺」としている。合わせ口甕棺は、北近江から岐阜・福井両県を中心に愛知県西部まで分布するもので、杉沢遺跡は東西の分布圏の接点に位置している。

同じ形の土器を合わせた甕棺は、滋賀県では、高島市木仰西海道遺跡（22組）、東近江市木流遺跡（１組）などで出土しているが、杉沢遺跡では、これまでに９組出土しており、今回で10・11組目となる（表１参照：但し、９号棺はDタイプか）。

杉沢遺跡出土の甕棺墓については、かつて『杉沢遺跡甕棺墓の調査・谷海道遺跡』（伊吹町文化財調査報告書第10集）で報告したが、要点のみ再度報告したい。今回も含め11組の甕棺が出土したのは、小字出晴および南川一帯で、東西約100ｍ、南北約120ｍの範囲内にあり、標高は156ｍ～160ｍである。甕棺が集中するこのあたりは、まわりから見ると尾根状に少し高くなっていて、比較的乾いたところである。また、近接する勝居神社境内には湧水があり、意識的にこのような土地を墓域（あるいは墓地を伴う集落）として選定していたことが予想される。

甕棺は、いずれも礫混じりの灰（茶）褐色粘質土層を掘り込んでおり、地表下約50～90cmを底にして埋設されていた。主軸の方向は、西北―東南が４組と多いほかは一定していない。埋葬位はすべて横位であったと推定される。

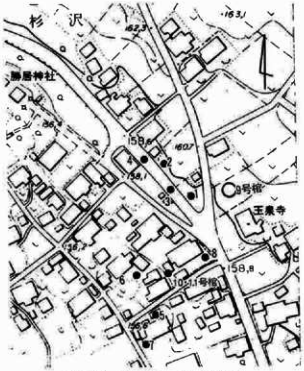
ほとんどの土器が一条凸帯である点や、凸帯上の施文に二枚貝を使っているものがあるなど、東海系の特徴を持つ土器群である。

表１　杉沢遺跡出土甕棺墓一覧

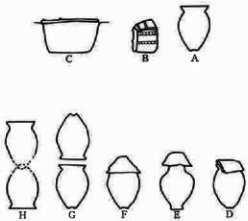
（単位：cm）

No.	出土年月日	出土地点	出土原因	調査主体	使用法	埋設位	主軸方向	深さ	土器	口径	高さ	底径	厚さ	所在
1号	S11.2.28	字出晴	県道工事？	－	単棺？合口棺？	横位	東－西	－	－	36	37	3.5	1.3	不明
2号	〃	〃	〃	－	『改訂近江国坂田郡志』P149図に記載があるが、本文中に記述がなく詳細不明									
3号	S13.4.2～3	〃	県道工事	京都大学	合口棺	横位水平	北東－南西	81.8	東棺	31	35	4.5	1.3	長浜城歴史博物館
									西棺	33	41	4.0	1.3	
4号	〃	〃	〃	京都大学	合口棺	横位水平	西北－東南	81.8	南棺	30	－	7.5	1.3	不明
									北棺	31	－	8.0	1.3	
5号	S15.8	字南川420	不時発見	－	合口棺	－	西北－東南	51～54	※５～７号棺は同じタイプの土器				0.5	不明
6号	－	字南川	〃	－	－	－	西北－東南	51～54					0.5	不明
7号	－	字南川419	〃	－	合口棺	－	西北－東南	60.0					0.6	不明
8号	S29	字南川416	〃	京都学芸大	合口棺	横位	北北東－南南西	65～75	※３・４号棺と同じタイプ				破失	
9号	H7.1	字南川	耕作	伊吹町教委	合蓋棺	横位水平	南－北	50.0	北棺	35	42	9.0	0.8	伊吹山文化資料館
									南棺	43	42	7.5	0.8	
10号	H15.2.14	字南川416	住居新築	〃	合口棺	横位水平	北東－南西	85.0	東棺	32	44	7.6	1.0	〃
									西棺	32	40	8.0	0.8	
11号	〃	〃	〃	〃	合口棺（入れ子）	横位水平	北東－南西	90.0	東棺	36	－	－	0.6	〃
									西棺	29	34	4.5	0.7	

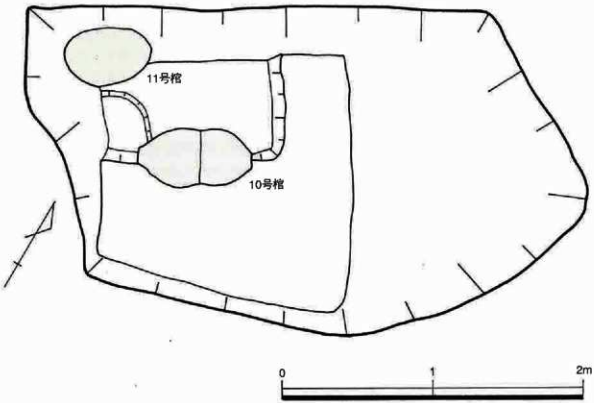
※参考文献：『改訂近江国坂田郡志』



第２図　甕棺出土地点位置図



第３図　土器棺墓の形式分類
（中村健二「土器棺墓よりみた近畿地方縄文晩期後半の地域色について」『滋賀考古』10）



第４図　検出遺構平面図

4　調査の内容

■調査の経緯

今回の調査は、個人住宅増築に伴い、庭先の梅の木を掘り起こしている際に土器の一部が確認されたもので、土地所有者から連絡を受けた伊吹町教育委員会が緊急の発掘調査を行った。

期間は平成15年2月14日～2月21日で、調査は土器の遺存状況と埋設方法を確認することを目的に、土器が出土した周囲を広げて行った。面積は約4 m²で、調査の結果、ほぼ完全な形の合わせ口甕棺1組と、隣接して1組の計2組を検出した。調査後は、住宅工事のため写真と図面で記録を作成した。

■調査の結果

甕棺墓（第4・5図）　発掘調査の結果、地表面から約85cm下で、2個の甕型土器がぴったりと口を合わせて横位水平に埋設されているのを確認した（10号棺とよぶ）。土器はいずれも口の部分に刻み目文様をつけた凸帯を巡らせている砲弾型の甕型土器で、底は小さな平底になっている。2つの土器を合わせた甕棺の長さは約84cmになる。埋葬後、比較的早く土砂が土器内に流入したようで、棺内は土が詰まっていた。掘方は不鮮明であるが、おそらく土器よりも一回り大きい穴を掘り、土器の下には、棺を安定させるために支え石を置いている。主軸の方位は北東―南西をさす。

10号棺の棺内の土からは3～5 mmの焼けた人骨が出土した。このことは、埋葬する過程で火にかける行為があったことを示し、甕棺が骨化した後に骨壺のような使い方をされたと考えることができる。

さらに、約40cm西側でもう1組出土した（11号棺）。この棺は上半分が潰れていたが、小形の西棺の口を東棺の中に入れ込んだ入れ子状の合わせ口甕棺である。近接して出土しているが、土器の特徴から、縄文晩期中葉終り頃のもので、11号棺が先に埋葬されたものと考えられる。

縄文土器（第6図）　出土した土器は、甕棺として用いられていた4点と、わずかに別個体の縄文土器片がある。

1は、10号棺の西側の土器で、口径約32.2cm、底径約7.6cm、高さ約44.0cmをはかる。砲弾型の胴部から頸部が内傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する甕型土器である。底部は細くすぼまって平底になる。口縁部に幅の狭いD字形の刻み目をもつ幅0.8～1.0cmの突帯を1条貼付する。土器の外面は、胴部から口縁部にかけて横方向に粗くケズリ調整を施し、頸部から口縁部はさらにナデ調整をおこなっている。胴部下部から底部にかけては縦方向に削る。内面は、口頸部は横方向の削りのあとナデ調整、胴部はナデによる調整である。内外面とも口縁部から胴部中央付近に、一部煤が付着している。

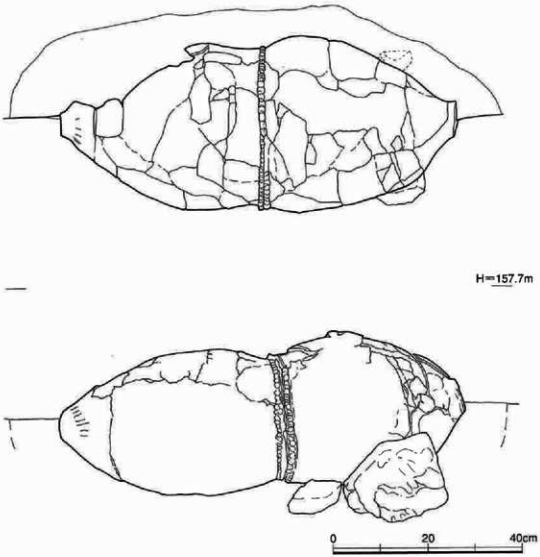
2は、10号棺の西側の土器で、口径約32.5cm、底径約8.0cm、高さ約40.3cmをはかる。

全体に砲弾型をしており、胴部と口頸部の境目が認められない。底部はややすぼまって平底になる。口縁部に幅広のD字形の刻み目をもつ幅1.0～1.6cmの突帯を1条貼付する。土器外面は斜め方向のケズリを施したあと、口縁部のみ横方向にケズリ調整をしている。内面も口縁部のみ横方向のケズリを施し、胴部はナデによる調整である。口縁部から胴部にかけて煤が付着する。

1・2の土器型式は縄文晩期終末の馬見塚－長原式土器か。

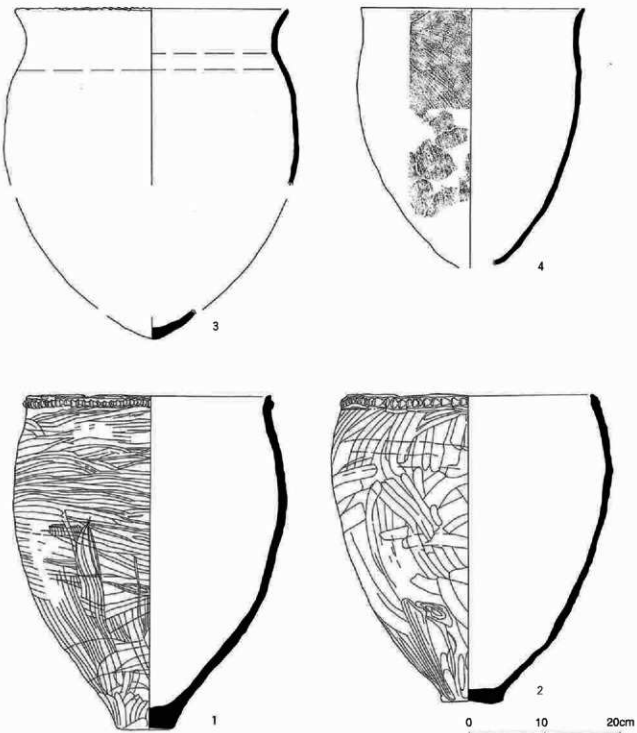
3は、11号棺の東側の土器で、口径約36.0cmをはかる。卵型の胴部から口頸部が外反する。口唇部にわずかにキザミ目を巡らせ、底部はやや尖りぎみの丸底である。土器外面は斜め方向のケズリを施し、口頸部はナデ調整である。内面もナデ調整である。滋賀里Ⅲb式土器か。

4は、11号棺の西側の土器で、口径約29.5cm、底径約4.5cm、高さ約34.4cmをはかる。



第5図　10号甕棺出土状況実測図

胴部と頸部の境目は認められず、口縁部がわずかに外反する。底部は凹底になる。胴部外面は斜め方向のケズリ調整。口縁部は内外面ともに横方向のケズリのあとナデを施す。



第6図　出土土器実測図

5　まとめ

合わせ口甕棺が良好に出土したとされる、昭和13年と昭和29年の資料は古写真でしか確認することができない。平成7年の9号棺は、横位にした完形の土器の口縁部に、もう一方の土器を割ってその体部で蓋をし、残りを逆向きに覆い被せており、「合わせ蓋棺」に類似する。今回、約50年ぶりに「合わせ口甕棺」がほぼ完全な形で出土し、加えて埋葬のための土坑や支え石など、埋設方法を確認することができる貴重な調査となった。

また、焼かれた人骨もわずかに出土しており、地元で言われる新生児等の初葬でなく、一度骨にしたものを再葬していることが確認できた。

合わせ口甕棺の出現は、縄文時代の晩期中葉終り頃で、福井県永平寺町や県内では高島市今津町などで出現期のものが発見されている。その後、晩期終末にかけて東海地方に広がったと考えられている。今回出土した2例のうち、10号棺はいままで杉沢で見つかっているものと同時期だが、11号棺は中葉終り頃の土器で、杉沢の合わせ口甕棺の出現時期を上げる結果になった。このことから、杉沢遺跡が、近畿・北陸から東海へ伝播する接点に位置している遺跡であるということがいえる。

11号甕棺出土状況

杉沢地区では、広い面積の調査が行われていないものの、集落内各地から11組もの甕棺が発見されていることや、多種多量の石器類が採集されていることなど、晩期の拠点的集落が眠っている可能性が高い。

また、遺跡の南東端では、甕棺とは時期の違う晩期前半の土器がまとまって出土しており、今後、周辺までをふくめて調査することによって、住居跡など杉沢遺跡の全貌が見えてくることを期待したい。

11号甕棺出土状況（上部土器除去後）

10号棺出土状況

1

2

10号棺東棺（左）
10号棺西棺（右）

3

4

11号棺東棺（左）
11号棺西棺（右）

報告書抄録

ふりがな	すぎさわいせき はっくつちょうさ ほうこくしょ		
書名	杉沢遺跡発掘調査報告書		
副書名	縄文時代晩期甕棺墓の調査		
シリーズ名	米原市文化財調査報告書		
シリーズ番号	第２集		
編著者名	高橋　順之		
編集機関	米原市教育委員会		
所在地	滋賀県米原市長岡1206番地		
発行年月日	平成18年３月		
所収遺跡名（すぎさわいせき）	杉沢遺跡	所在地（ふりがな）	杉沢（すぎさわ）
市町村コード	252140	遺跡Ｎｏ．	462－022
北緯	36° 22′ 20″	東経	136° 23′ 10″
調査期間	平成15年２月14日～21日		
調査面積	4㎡	調査原因	個人住宅
種別	墓跡	主な時代	縄文時代
主な遺構	土器棺墓	主な遺物	縄文土器
特記事項			

米原市文化財調査報告書　第２集

杉沢遺跡発掘調査報告書

2006年３月

編集・発行　米原市教育委員会
滋賀県米原市長岡1206番地
℡　0749－55－8106
印刷・製本　ツチヤ印刷